

日医工MPS行政情報シリーズ

http://www.nichiiko.co.jp/mps/mps_m.html

「医療用医薬品市場予測」 —DPCの動向とジェネリック—

資料作成：日医工株式会社 MPSチーム
(認定登録 医業経営コンサルタント登録番号第4217 菊地祐男)



資料No.181120-61



日医工株式会社

<http://www.nichiiko.co.jp>

DPC関連病院の状況

2006年3月まで

旧名称	DPC対象病院		試行的適用病院			調査協力病院									合計			
施設数	82		62			228									372			
一般病床数	約7万床		約2.5万床			約9.4万床									約18.9万床			
内訳	2003年度～ 特定機能病院等		2004年度～			2003年度～			2004年度～			2005年度～						
	大学病院	ナショナル センター	国立	社保	民間等	特定 機能等	国立	社保	民間等									
	80	2	8	25	29	1	9	10	9	4	112	4	2	77	82	22	40	228

2006年4月以降(～7月)

新名称	DPC対象病院			DPC準備病院	脱退
施設数	82	62	216	10	2
一般病床数	約7万床	約2.5万床	約9万床		
合計	360			375(10+365)	
	約18.5万床				

2006年度にDPCに関係する医療機関は735施設になった。次年度以降に準備病院に手挙げを予定している病院も多く、最終的には1,000～1,200施設程度がDPC対象病院になるものと思われる。

DPC対象病院の推移予測

2006年7月	2007年4月	2008年4月	2009年4月	2012年以降
DPC対象病院	(DPC準備病院)	次のDPC参加病院	次々のDPC参加病院	
施設数: 360 ①: 約18.5万床 ②: 514床 ③: 29.9億円(推定)	施設数: 375 合計: 735 ①: 約30万床 ②: 408床 ③: 22.7億円	施設数: 250 (推定) 合計: 985 ①: 約38.4万床 ②: 390床 ③: 20.9億円	施設数: 215 (推定) 合計: 1,200 ①: 約45万床 ②: 375床 ③: 20.0億円	施設数: 1,200 (推定)
準備病院全てが対象病院になったら				
①: DPC対象病床数 ②: 一施設平均病床数 ③: 一施設平均薬剤費				
推定(日医工MPS)				
病床再編が完了した時点(2012年以降)でのDPC対象病院は、45万床(1200施設)を維持していると仮定した。DPC病院は平均在院日数の短縮に伴ない、患者回転率が上がるため、2009年に比べて1施設あたりの薬剤費もアップしていると予想した。				①: 約45万床 ②: 375床 ③: 23.0億円

DPC対象病院の承認が毎年実施され、最終的なDPC施設は1200施設と予測。2009年に1200施設に到達し、その後はDPC施設同士の競合で入れ替えがあったとしても45万床(1200施設)が維持されていると仮定した。薬剤費は特定機能病院のデータを基に一定の掛け率にて各年度の数値を日医工MPSが独自に推定した。

病院（一般&療養）病床の推移予測

推定 (日医工MPS) 病床数比	病院				診療所		介護施設	保険薬局
	急性期病床		療養病床	その他病床	有床診療所	無床診療所		
	DPC	一般病床						
2006年4月	18.5万床	71.5万床	38万床	36万床	17万床			
2007年4月	30万床	60万床	35万床					
2008年4月	38.4万床	46.6万床	30万床					
2009年4月	45万床	35万床	28万床					

病床再編完了時

(2012年)	45万床	15万床	15万床	その他病床(精神・感染症)、診療所、保険薬局等については施設数等の予測はしなかった。				
---------	------	------	------	--	--	--	--	--

現在の約90万床の一般病床は約60万床に、療養病床は15万床になるとして病床数の推移を予測した。削減となった病床にいた患者は、患者回転率の上がったDPC病院、在宅を含んだ診療所、また介護施設等へ移動しているものと予想される。ここでは予測しなかったが、精神病床は社会的入院の是正により病床数は削減の方向にあり、有床診療所はいずれ“小規模病院”となりその病床も地域医療計画に取り込まれると考えられる。無床診療所は在宅支援と介護市場へのシフトが進み、保険薬局は分業率が60%台後半まで漸増すると予測した。その結果医療用医薬品市場はDPC対象病院と保険薬局で増加すると予測される。

医療用医薬品市場推移予測（前提&結果考察）

〔2006年度医療用医薬品市場予測の前提（日医工MPS推定）〕

2006年度の医療用医薬品市場及び各施設区分ごとの比については、IMS Japanのデータ*を参考に推定した。

*：参考データ（IMS Japanホームページより「2005 YE Sales Data」2005年1月～12月）

医療用医薬品市場は各年1～3%で伸張するとした。

DPC市場の医薬品市場は、特定機能病院のデータ*を基に推定した。

*：参考データ（平成17年社会医療行為別調査結果概要、日医総研WP No.113など）

ジェネリック市場は2004年値（医薬協）を基に以後を推定した。

〔結果考察〕

多くの推定を基に算出した予測であり、前提としたIMSデータの診療所は99床以下であることも考慮しなければならないが、それでも今後の医薬品市場はDPC市場の影響を強く受けるものと推測される。

医療用医薬品市場の約1/3がDPC対象病院に集中し、さらに保険薬局、地域診療所への影響も考慮すると、1/2～3/4程度の医薬品市場に“DPC”の影響が及ぶものと思われる。

この段階でジェネリック金額シェアは11.1%で9,600億円と予測され、約1兆円の規模となっている。この時の数量シェアは35～40%程度となり、政策上の目標にもある程度近づいているのではないだろうか。今回の予測では2008年4月の患者負担増やDPC調整係数の動向についても織り込んだつもりだが、これらの影響が予想以上に大きく出るとジェネリックシェアもさらに拡大することが考えられる。

医療用医薬品市場推移予測（日医工MPS）

(薬価ベース) 医薬品市場比	病院		診療所・介護市場	保険薬局市場
	DPC市場 18.5万床	DPC以外の病院市場		
2006年4月 医薬品市場	7兆7500億円			
	3兆2550億円 (42%)		2兆0900億円 (27%)	2兆4050億円 (31%)
	1兆0750億円 (33%)	2兆1800億円 (67%)		
GE市場6.2% (4800億円)	3% 300億円	5% 1100億円	7% 1500億円	8% 1900億円

(薬価ベース) 医薬品市場比	病院		診療所・介護市場	保険薬局市場
	DPC市場 45万床	DPC以外の病院市場		
(2012年) 医薬品市場	8兆6300億円			
	3兆4500億円 (40%)		1兆7300億円 (20%)	3兆4500億円 (40%)
	2兆7600億円 (80%)	6900億円 (20%)		
GE市場11.1% (9600億円)	6% 1650億円	10% 700億円	12% 2050億円	15% 5200億円

2012年は、介護療養病床が完全に消滅し病床再編が一段落していると仮定して、「病床再編完了時」の姿として予測した。